

最高峰のカリスマ・ドラマーが東海市に登場

トップ・ミュージシャンと共に繰り広げる至高のステージ

完璧なテクニックと唯一無二のグルーブでエリック・クラプトン、ポール・サイモン、チック・コリアなど数多くのミュージシャンから共演を切望されてきた「ドラムの神様」スティーヴ・ガッドが、自身のバンドを率いてジャパン・ツアーを行う。1970年代からカテゴリーを超えて活動し、スタッフ、ガッド・ギャング等を経て、2013年にマイケル・ランドウらとスティーヴ・ガッド・バンドを結成。2018年作『スティーヴ・ガッド・バンド』はグラミー賞のベスト・コンテンポラリー・インストゥルメンタル・アルバム賞を獲得した。今回はウェイン・ショーターやジョン・マクラフリン等のバンドで活動したキーボード奏者のミッチェル・フォアマン、愛息のパーカッション奏者デューク・ガッドを含む最新ラインナップによるステージ。阿吽の呼吸、至高のアンサンブルを間近で体感したい。



スティーヴ・ガッド (ドラムス)

Steve Gadd(Ds)

完璧なテクニックと唯一無二のグルーブで、いまなお圧倒的な輝きを放つ「ドラムの神様」。7歳でドラムを始め、'60年代後半からプロ活動を開始した。'73年にはチック・コリア率いるリターン・トゥ・フォーエヴァーに短期間在籍し、以後、スタッフ、ステップス等のジャズ・フュージョン系オールスター・ユニットや、エリック・クラプトン、ジェームス・テイラーのバンド等で活躍。セッション・ミュージシャンとしてもス

ティーリー・ダン[Aja]、リッキー・リー・ジョーンズ[Chuck E.'s In Love]、ポール・サイモン[50 Ways to Leave Your Lover]、グローヴァー・ワシントンJr.[Just the Two of Us]など数多くの名曲・名演を支えてきた。自身のユニットには、'80年代後半に活動したザ・ガッド・ギャング、2012年結成のブリッチャー・ヘマー・ガッド、ジェームス・テイラーのバック・メンバーで2013年に結成されたスティーヴ・ガッド・バンド等がある。2018年リリースの『スティーヴ・ガッド・バンド』は第61回グラミー賞ベスト・コンテンポラリー・インストゥルメンタル・アルバムを獲得、2019年のブルーノート東京公演を収めたライブ・アルバム『AT BLUE NOTE TOKYO』も第64回の同賞にノミネートされた。

ミッチェル・フォアマン (キーボード)

Mitchel Forman(Key)

1970年代から第一線に立つファースト・コール・ピアニスト。NYブルックリンに生まれ、マンハッタン音楽院卒業後にプロ活動を開始。スタン・ゲッツやウェイン・ショーターのグループ、ジョン・マクラフリンのマハヴィシュヌ・オーケストラ等で頭角を現し、90年代から2010年代半ばにかけてはチャック・ローブやウォルフガング・ハフナーとユニット「メトロ」も率いた。マーク・ジョンソンやマイケル・ブレッカーが参加した『トレイン・オブ・ソウト』を筆頭に、自己名義のアルバムも約15点を数える。18年にはラリー・カールトン「ザ・グレイテスト・ヒッツ」来日公演に参加。敬愛するピアニストにビル・エヴァンス、キース・ジャレット、チック・コリア等をあげている。

デューク・ガッド (パーカッション)

Duke Gadd(Per)

サウンドクラウドでも意欲的な楽曲発表を続けるパーカッションист/ドラマー/ソングライター。父スティーヴ・ガッドの薫陶を受けて幼い頃から音楽に親しみ、これまでジョン・トロペイ、ディオン等のレコーディングに参加。グラミー賞受賞作品『スティーヴ・ガッド・バンド』には、共作楽曲『ホエアズ・アース』と『ラット・レース』を提供している。ブルーノート東京への登場は、2014年1月に行われたミカリンバ featuring スティーヴ・ガッド、エディ・ゴメス、ジョン・トロペイ、リチャード・ストルツマン&デューク・ガッド公演から11年ぶりとなる。その多彩なパーカッション・ワークが、スティーヴ・ガッド・バンドの音作りにさらなる厚みを加えることは間違いない。

マイケル・ランドウ (ギター) Michael Landau(G)

ギターの名器、フェンダー・ストラトキャスターの持ち味を最大限に引き出す達人。19歳でボズ・スキャッグスのツアーに抜擢され、その後、友人のスティーヴ・ルカサーの推薦でセッション・ミュージシャンとしての活動も開始。ジェームス・テイラー、マイケル・ボルトン、ジョニ・ミッチェル、バーブラ・ストライサンド、セリーヌ・ディオン、マライア・キャリー等のレコーディングに参加し、レジーナ・ベルとピーボ・ブライソンが歌った『A Whole New World』でも絶品のギター・プレイを繰り広げた。これまで8点のソロ・アルバムを発表する一方、ロベン・フォードとのツインギター・ユニット「レネゲイド・クリエイション」等でも話題を集めている。

トラヴィス・カールトン (ベース) Travis Carlton(B)

子供のころからギターに親しみ、13歳の時にベースに転向。ミーターズ、ブー・ツイー・コリンズ、ハービー・ハンコック、ジミー・スミス、マイルス・デイヴィスらの音楽に熱中し、名門音楽大学「ミュージシャンズ・インスティテュート」ではアーネスト・ティプス(サイモン・フィリップス率いる「プロトコル」の一員)らに師事した。プロ・デビュー以後は、父親のラリー・カールトンを筆頭に、スティーヴ・ルカサー、ロベン・フォード、グレッグ・マティソン、次世代ブルースマンの筆頭格であるジョシュ・スミスらと共演。2003年にはサラ・パレリスのバンドの一員として、マルーン5のオープニング・アクトも務めた。スティーヴ・ガッド・バンドには、ジミー・ジョンソンの後任として参加。

ウォルト・ファウラー

(フリューゲル・ホーン、トランペット)

Walt Fowler(Flh,Tp)

19歳からプロのトランペッターとして活動を始め、'74年春にフランク・ザッパ&マザーズへ加入。断続的ながらザッパとは'88年のツアーまで行動を共にした。'75年には兄弟のブルース(トロンボーン)、スティーヴ(サクソ)、トム(ベース)、エド(ベース)と共にフォウラー・ブラザーズ・バンド(別名エア・ポケット)を結成。ほか、ジョニー・ギター・ワトソン、ジョージ・ベンソン、ダイアナ・ロス、ジャック・ブルース、アンディ・サマーズ、ジェームス・テイラー等のプロジェクトやツアーに参加し、『パイレーツ・オブ・カリビアン』シリーズなど、ハンス・ジマーが担当した数多くの映画音楽で管弦楽の編曲を手がけている。

劇場インフォメーション

金川真弓(Vn) 佐藤晴真(Vc) 久末航(Pf) ピアノ・トリオ



2025年2月16日(日) 15:00開演
東海市芸術劇場 大ホール

一般 ¥3,000 小中高生 ¥1,000

※未就学児入場不可

◆ユウナルフレンドメンバーズプラチナ会員割引価格
一般 ¥2,700 小中高生 ¥900

出演: 金川真弓(Vn)、佐藤晴真(Vc)、久末航(Pf)

プログラム: チャイコフスキー/
ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出」ほか

【チケット発売】会員先行: 11月9日土 / 一般: 11月16日土

開館10周年プレ公演 スペシャル・ガラ・コンサート「オペラへの扉」



2025年3月9日(日) 15:00開演

東海市芸術劇場 大ホール

一般 ¥5,000 小中高生 ¥1,000

※未就学児入場不可

ユウナルフレンドメンバーズ
プラチナ会員割引価格

一般 ¥4,500 小中高生 ¥900

出演: クリスティアン・アルミンク(指揮)、田崎尚美(ソプラノ)、
林美智子(メゾ・ソプラノ)、城宏憲(テノール)、上江隼人(バリトン)、
名古屋フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)ほか

プログラム: ワーグナー/
楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」序曲ほか